

保険証一枚ではり・きゅう・マッサージを受けたい

# 医療を考える会 会報

発行元:NPO 法人 医療を考える会

住所 渋谷区代々木 2-39-7 メゾン代々木 201 号

TEL 03-3375-6151 / FAX 03-3299-5275

メール [iryokangaeru@waltz.ocn.ne.jp](mailto:iryokangaeru@waltz.ocn.ne.jp)

ホームページ <http://npo-iryoku.org/>



## 第 12 回「NPO 医療を考える会」定期総会開かれる

理事長 山西 俊夫

11 月 27 日（日）、NPO「医療を考える会」の定期総会が、渋谷区 上原社会教育会館で開催されました。当日は天気予報では降雨が心配され寒気の中 19 名が参加されました。

武井百代さんの司会で進行、山西俊夫理事長の挨拶で始まり、来賓の「健康保険ではり・きゅう・マッサージを受ける国民の会」藤岡東洋雄副会長、(社)鍼灸師マッサージ師会 清水一雄事務局長の挨拶、宮原哲朗弁護士のメッセージ、高橋養蔵理事から国民の会の現状報告がありました。



つづいて議長に瀬川信幸さんを選出、総会出席会員数 19 名、委任状提出の会員数 103 名、出席会員合計 122 名にて会員数 206 名の過半数に達し、本総会が成立していると宣言され議事に入りました。

山西理事長が行った平成 27 年度の活動報告および平成 28 年度の活動計画の提案、山口副理事長が行った 27 年度の決算報告および 28 年度予算案の提案は、出席者全員の拍手にて承認されました。

活動報告は昨年同様スクリーンで行いましたが、モニターの不調で不鮮明な画像でご迷惑をおかけいたしましたこととお詫び申し上げます。今後の反省とさせていただきます。

報告の中で 3 月に 83 歳で逝去された故相葉計佳顧問をしのんで出席者全員で黙祷を捧げました。

当日参加された甥の松田さんが挨拶をされ、「われわれの運動を絶対にあきらめないこと！継続し努力してほしい。お前は NPO の総会に必ず出席して皆に伝えてくれ！」と先生の遺訓を發表されました。あらためて豪放磊落かつ慎重であられた先生から叱咤激励を受けた思いがします。同時に先生の持論であった東洋医療と西洋医療の統合を実現させる日まで我々の NPO の運動を継続しなければならないと意を強くしました。

最後に渡辺俊子さんから役員の変更について提案があり新役員は従来の陣容で承認されました。PM2 時 50 分総会は滞りなく閉会しました。皆様のご協力に感謝いたします。

12月11日(日)AM10時から会事務所で第一回の理事会を開催し平成28年度の活動がスタートします。

会員全員、力を合わせて故相葉先生の志を引き継ぎ、鍼灸・マッサージ・指圧が西洋医療と格差なく、健康保険で心おきなく受けられる日まで頑張りましょう！

## 講演「当事者たちの告白を取材して」

田中 榮子

今年の7月3日、NHKはスペシャル番組で「私は家族を殺した—当事者たちの告白」を放映しました。今回はこの番組作成の中心になった丸岡裕幸ディレクターをお招きし、ビデオ上映と講演をお願いしました。

はじめに「介護殺人」138件を取材しまとめたビデオを見ました。その内容、事例—奥さんに認知症状がでてきて日常生活が普通に送れなくなってきた。夫は治ると信じて料理、洗濯など一生懸命やったが、奥さんは転倒し骨折でねたきりとなり、排泄も一人で出来なくなった。こんなみじめな姿を近所の人に見せたくない日々悩み、病人も絶望して「死にたい、殺してちょうだい」と強く訴えるようになった。夫は疲労困憊し、冷静に考えられなくなり、自分でブレーキを踏めなくなった。—そして殺人実行となる。他の事例でも大切な肉親を自分の手にかけてしまった。後悔、葛藤、悲しみ、見ている私達もいたたまれない気持ちになった。丸岡さんのお話し。

NHKは619人のアンケート調査を実施した(介護をしている家族に対し)。そのうち26%の人は介護をはじめて一年経過の人。「介護をはじめて一年が一番つらかった」とのこと。介護中は世の中から取り残され、社会的孤立状態になっていた。

このビデオをつくるきっかけは、2015年7月千葉地裁で「介護殺人を犯した人の判決があった。裁判長より「社会の中で介護しなくてははいけない」との判決文にあった。それからNHK内で相談して取り組んだ、とのことだった。

後半のビデオ上映後丸岡氏のお話し。この問題をどの様にまとめるか考えた。厚生労働省への取材も考えた。「家族もどうしたらよいか」と「認知症と家族の会」へアンケートをお願いした。

615人の回答の中、実に多くの人がSOSを発していた。この問題に気づき合うきっかけになればと思い本をつくることになった、とのことである。

「講演後の質問から」

- 「介護殺人」となるまで、ケアマネジャーやヘルパーなど介護にかかわった関係者はどうしていたのだろうか。介護にかかわる人たちの役割が大切だが、こういう人たちの評価がひくいのが問題と思う。
- 殺人は男性が7割、女性が3割。日本の介護は65%を女性が担っている。
- 東洋医療、鍼灸、マッサージが介護の場で使



われていれば、介護を受ける者、介護にあたる者の孤立を避けるうえでも役立っていたと思う。

- 「介護保険」は社会の責任で介護ができるようにと生まれた。それなのに中身が、どんどん悪くなってきた。
- 国は医療費全体を少なくするために患者を早く病院から退院させ、在宅へ押し込んできている。鍼灸、マッサージ師の役割は大きいのだが、現実には働きやすくなっていない。どうしたものか。
- この国の介護、医療の実態を冷静に見て、私たち国の主人公は、必要時、意見を出したり、行動できるようにしていきたい。

NHK さんにこの問題を掘り下げていただき、本日の講演にまでなったこと、丸岡氏に熱くお礼を述べます。このテーマで学び合えることを希望しました。参加者にとって大変勉強になったと思います。

(2016年12月7日)

---

## 「医療を考える会」の総会へ初めて参加して

山西 八榮子

「医療を考える会」の総会への参加は、NHK ドキュメンタリー「介護殺人」のディレクターの講演があると言うので、前もって見ていた CD で2つの疑問があり、初め断った参加を撤回したのは結果的に正解でした。多くの介護について質疑応答があったからです。

私の疑問 1. 介護殺人をなくすには、殺人に至る前に尊厳死及び安楽死の選択が個人の希望で将来可能になるのか？ 2. 全国で看护士 550万人に対し1年で介護殺人が146件、これは少ないなと感じました。残りの5,499,854人の絶望的な人生は理不尽だと、ここに光を当てて、訪問介護の充実、憲法11条の人権に対する社会保障の充実。この問題は質疑応答の中で、多くの人が話されました。

登場したのはNHKの若いディレクターでした。NHKの体質（民意を反映せず、権力側に立った）と戦うのは大変だなと考えつつ、来年から靱井会長から三菱商事の上田会長へ変わります。ディレクターにとって吉と出るか？凶と出るか？

私個人の話をする、39年前からNHK受信料を支払っていません。当時私のテレビはアンテナ無しNHKは映りませんでした。やくざ風の初老の男と数ヶ月バトルをし、アパートの玄関先で、お前は人間失格だ、常識のない女だとののしられ、NHKに抗議のハガキを送り付け、引っ越しました。「すっからかんで、裁判をすることができません。慰謝料として計算すると100年支払わなくて済むようです」

今年39年目、70才の私は131才まで生きる積りだったの？ 近い将来、インターネットとテレビが一体化し受信料だか、通信料だか、消えてなくなる運命。

総会が終わった後食事会があり、目の前の席に着いた藤岡先生に総会の挨拶の中で話された、難病薬オプジーポについてお伺いした。肺ガン、乳ガンにも効果があることがわかり、昨年ガン患者1人3,500万円かかったが、高価すぎる為、来年から半分の1人1,700万円になった。（このニュースは私もテレビで見ました。）

すぐ方程式で計算したら、ガン患者10,000人だったら1人1,700円の負担となりました。しかし話を聞いていると1人1,700万円でガン患者10,000人だったら1,700億

円と患者の人数分だけ開発者には莫大な金が入ります。これは詐欺です。

アメリカでエイズ薬を開発した人が一方的に薬価を引き上げました。その一方、オーストラリアのシドニーの高校生グループがタダ同然で同じ薬を作りました。ニュースの中で白衣を着た高校生が笑っていました。

薬は特許を取得した人の勝ちです。患者にとってこれほど理不尽な話はありません。



2016年11月 NPO第12回定期総会 **参加者 アンケート**

1、 事業計画・予算について

(Y・Y) NHKのディレクターが若い人なので納得。

最近のNHKのドキュメンタリーはいいものが多いとうわさに聞いてました。ロシアの知られざる街とかテレビはあまり見てませんが、ドキュメンタリーを若い人達が頑張っているの  
で安心しました。

(K・T) 良いと思います。

(K・S) ご苦労様でした。

(M・T) 良いと思います。

2、 講演会について

(A・S) 介護の現実と介護保険などの制度の現状が理解できました。

介護当事者としてもマスコミの方やこの会で介護や高齢社会の現状を改善していこうとい  
う気持ちがあることを知り力強く感じました。

(R・H) とても良かった。考えさせられました。やがてわが身かと・・・

(M・M) 大事なことを話してくださりありがとうございました。

(K・T) 介護～改めて難しい課題があると実感した。

(K・S) 今回は良かったと思います。国民皆が隣り合わせにある問題であり、このような機会  
を設けていく事を希望します。

(M・T) 改めて貴重な事例をまとめた作品と作成者の方々から「介護殺人」に関する思いを本  
人の口から語っていただきました。

様々な年代、立場からの意見交換ができたと思います。

3、その他

(Y・Y) 初めて定期総会に参加したのですが、意義がありました。

4、会の活動に望むこと、アイデアなどありましたら何でもご記入ください

(A・S) 介護者と介護や医療従事者が生きやすく働きやすい社会づくりの為に今日のような集いやボランティアを会でやっていって欲しいです。

(M・M) 毎年一回 植物園とかハイキングをお願いします。

(K・S) 一般の入会者が増えていく事を考える必要がありますね。

以上 7名の方のご意見が寄せられました。

## 〈28年度の理事と担当役職〉

1、	山西俊夫	理事長・広報兼務・「国民の会」副理事長
2、	田中榮子	副理事長・組織兼
3、	山口充子	副理事長・事務局長
4、	高橋養藏	組織・「国民の会」副理事長
5、	久下勝通	広報アドバイザー
6、	岩下幸卯	リクレーション
7、	木幡久美子	会計・リクレーション
8、	瀬川信幸	企画
9、	武井百代	企画
10、	鳥海健二	監事・会計監査

★ 27年度まで広報を担当していただきました平田啓氏が退任されましたが以上10名の方が今年度継続していただくことになりました。

### 講演会・リクレーションなどの予定

2月12日 (日) 千駄ヶ谷社教館まつり

6月 リクレーションに神代植物園(調布市)散策

9月 「ワクチン」について母里啓子医学博士による講演

以上予定していますがこれから具体化したらお知らせします。他に案があれば事務局まで一報お願いします。

引き続き、健康保険ではりきゅう・マッサージを受ける「国民の会」署名の取り組みを進めましょう。

医療は入院制限が強まり、病状回復が不十分なまま退院を迫られる独居や老老介護問題山積です。在宅重視と言いながら訪問マッサージ、訪問鍼灸治療の縮小や軽度の高齢障害者への介護給付の縮小など、医療も介護負担は大きくなる一方で受けられる医療や介護は制限が強まるばかりです。

混合診療への道も見え、医療保証は危険な状態です。わたくしたち一人ひとりがはっきりと人権尊重、社会保障の充実へ声を上げなければならないときです。

国の対応は、はり・きゅう治療、あん摩・マッサージ・指圧治療を医療とみとめず排除を強めるばかりですが、高齢化社会を支えるために活用がなによりも必要な医療です。

はり・きゅう治療、あん摩・マッサージ・指圧治療を患者が選べる健康保険への署名を粘り強くすすめていきましょう。



## 実績報告

「国民の会」会報2号ごらんいただきましたでしょうか？

昨年末、1万筆突破しましたが、当会で今現在までに約2000筆が増えたところです。来年は4年目を迎えます。「会報」を多くの方に届け、鍼灸マッサージの良さを訴え保険制度に医療として認めさせる飛躍の年にしたいものです。心身ともにより良い年になることを願っています。

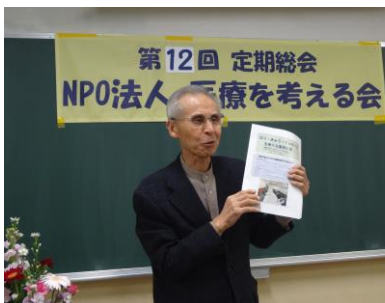
事務局 山口充子

平成28年12月現在 **12,065 筆** (当会に寄せられた署名の到達点)

健康保険ではり・きゅう・マッサージを受ける「国民の会」の到達 **36,547 筆**

## 署名運動にひきつづきご協力を

健康保険ではり・きゅう・マッサージを受ける国民の会 副会長 高橋養蔵



11月17日現在で36547筆うち東京の分11987筆です。ご協力ありがとうございます。

前回の会報で報告しましたが、9月30日に厚生労働省から出された通知で、同じ建築物内の同日治療の往療料は一人の患者以外認めないことになり往療費が削減されました。結果、患者の治療回数が減らされることに繋がります。

通知でどうにでもなる状態です。このような不安定な状況をなくすためには、鍼灸治療院・マッサージ治療院が健康保険取扱い

指定医療機関になれるよう健康保険法を改善する必要があります。法律を作るのは国会議員の仕事です。「国民の会」は署名運動を力に国会議員に働きかけ法律改正の実現をめざしています。国会議員への要請行動も行っていますが、現在の署名到達数では全政党、全会派の国会議員を動かすには数が足りません。

「国民の会」の役員会では署名運動を広げるには、会の組織強化をしなければならないと考えています。そのための取り組みの一つとして会報2号を発行しました。もう一つ街頭で行う署名行動に使用するのぼり旗の作成を準備しています。そして引き続き会報を発行してゆくためには財政のうらづけが必要です。会費制の検討も行っていますが、総会の決定を待たなければなりません。当面この運動に賛同してくれる皆さんからの募金で財政を支えたいと考えています。ご協力よろしくお願ひします。

# インフルエンザワクチンは効かない

「予防医学」でなく「患者を呼ぼう医学」だ、などという軽口の医師の発言を文書でみた記憶があるのですが、インフルエンザが危険、肺炎が危険と盛んに病院に呼んでいます。

病院へ行けばワクチンを打つこととなるでしょうが、このワクチンが重大問題です。

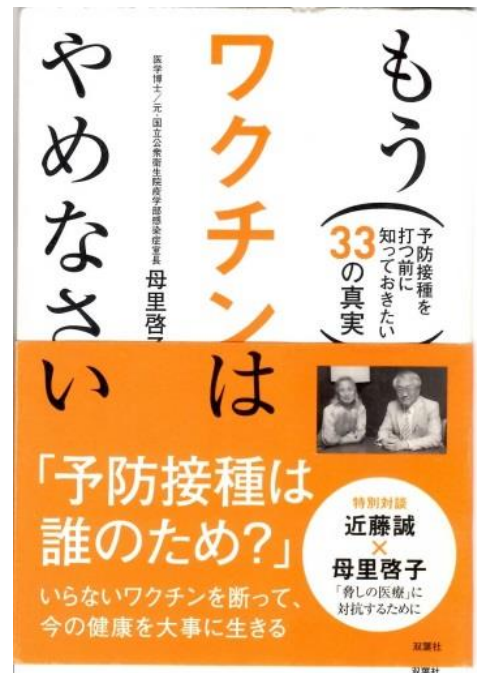
医学博士の母里啓子氏の「子供と親のためのワクチン読本」「もうワクチンはやめなさい」とい著書に出会って、はじめてワクチンの重要な問題に気付かされました。効果が疑問なワクチン、必要のないワクチンが乱用され、重大な副作用の被害が広がっているのです。

冬になるとインフルエンザワクチンが大宣伝されますが、母里啓子氏はインフルエンザワクチンが必要ないことを著書のなかで明らかにされていますが、すでに2009年には朝日新聞で見解をのべておられます。

政府のやることだから間違いないでしょうというのは疑問です。自分が考え選ばなければなりませんし、不必要、有害なワクチンに医療費をつぎ込むこともやめなければなりません。

以下に母里啓子氏の朝日新聞記事「ワクチン接種は慎重にして」を転載します。

\*母里先生の本は事務所で販売しております。いずれも1冊1,100円です。



## 新型インフル ワクチン接種は慎重期して

母里 啓子（もり ひろこ） 元国立公衆衛生院感染症室長

(2009年10月10日 朝日新聞記事より抜粋)

疫学者からみればインフルエンザワクチンは、予防接種の中で最も効かないものの一つだ。インフルエンザウイルスはのどや鼻の粘膜に付き、そこで増殖する。一方、ワクチンは注射によって、血液中にウイルスの抗体を作る。のどや鼻の粘膜表面に抗体ができるわけではないので、感染防止効果はない。

重症化を防ぐかどうかについても、大規模な疫学調査はこれまで行われていない。グループ内で接種者と非接種者の重症度を比べた論文は複数あるが、結論はまちまちだ。小児の脳症も高齢者の肺炎も、インフルエンザで体力が落ちたところに、解熱剤の使用や食物の誤嚥、細菌感染などという別の要因が加わって起こるもので、ウイルスが脳や肺で増殖して起こるのではない。

インフルエンザウイルスは猛スピードで変異する。同じ型でも流行開始時と半年後では全く違う株になっている可能性が高い。ワクチンで初期のウイルスの血中抗体価が上がったとしても、変異したウイルスがのどや鼻に付けば、感染や発症は避けられない。

以上の原理は新型インフルエンザにも同じようにあてはまる。健康な人ならば、新型インフルエンザにかかっても、死ぬことはまずない。かえって強力な免疫ができる。感染しても症状が出ない「不顕性感染」も多い。地域や学校ではやったら、症状が出なかった人も抗体を持っている可能性が高く、そういう人にはワクチンは必要ない。